

(様式6)

金子 有紀子 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 The process of end-of-life cancer patients making meaning in continuous purposeful touch intervention

(終末期がん患者が継続的な意図的タッチ介入を意味づける過程)

雑誌名 (巻) THE KITAKANTO Medical Journal 64(1) 2014, (in press)

著 者 Yukiko Kaneko, Kikuyo Koitabashi, Kiyoko Kanda

論文の要旨及び判定理由

目的は、看護師の意図的タッチを受ける一般病棟の終末期がん患者の経験の過程を明らかにし、積極的に触れるケアを計画・実践するための示唆を得ることである。対象は、本人および家族の同意が得られた一般病棟に入院中の終末期がん患者12名である。介入方法は対象者の希望する部位をさする、圧するなどのタッチを20分間、週に2～3回の頻度で実施した。介入後に半構成的面接を行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)を用いて、意図的タッチ介入を繰り返し受けている経験の過程を検討した。その結果、患者は、がんであるという現実を再認識する一方、快情動を実感することでタッチに意味を見出していた。さらに、不快症状が緩和することで、家族や身近な人とのつながりの中で存在する自己を自覚するとともに、がんとともに生きる自分を見つめる機会となり、他者との相互作用の中で生きていく力となっていた。

本研究は、意図的タッチは終末期がん患者に快情動をもたらすだけでなく、タッチの意味を見出す経験であることを初めて明らかにしたものであり、がん患者のQOL向上に寄与する新たな看護ケアのエビデンスの創出と認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

平成26年2月5日

審査委員

主査 群馬大学大学院教授
看護学講座

二渡 玉江



副査 群馬大学大学院教授
看護学講座

岩永 喜久子



副査 群馬大学大学院教授
看護学講座

岡 美智代



参考論文

1. なし
- 2.